

## 喜びの声



鏡石町長 遠藤 栄作

今回の受賞は、全国でも最高の賞であり、大変すばらしいことだと思います。クラス全員がそれぞれの思いを込めて作ったものであり、町の復興への大きな励みになるものと感じております。また、町民のみなさんも勇気を頂いたとともに、今回の受賞を喜んでと思います。鏡石一小6年4組のみなさん本当に受賞おめでとうございませう。



6年4組保護者  
石橋 勝子さん

子どもが家に帰ってきて受賞の話をしたときは少し興奮していました。しかし、担任の須田先生の話の間までは、そんなにすごい賞だとは思いませんでした。表彰式では、みんな緊張していた様子でしたが、いつもより大人になった感じを受けました。これからは、この受賞の経験を活かしていろいろなことにチャレンジして欲しいと思います。



須田 智美先生  
(受賞時の5年4組担任)

応募のきっかけは、クラスみんなで一つのことをやり遂げることを挑戦させてみたいということからでした。作文が苦手な子どももいて、新聞を書くのは大変でしたが、クラス全員一人一人があきらめずに新聞を書けたことは良かったですね。子ども達は本当に頑張っていましたし、たくさん応援してもらったこともあって、受賞は夢のようでした。



## 鏡石一小が文部科学大臣賞を受賞!

鏡石町立第一小学校5年4組(現6年4組)が、「朝日小中学生復興新聞コンクール」で、最優秀の文部科学大臣賞を受賞しました。今回は、表彰式の様子や受賞した子ども達、新聞の内容などを紹介します。

### 町の復興へ弾みをつける受賞

#### 朝日小中学生復興新聞コンクールとは?

このコンクールは、子ども達が東日本大震災をどう受け止めてどう考えたのか、被災地の復興にどんな希望を描いているのかなどを新聞で自由に表現をし、震災と復興への思いが掲載されているものなどを全国で募集したものです。応募は、全国35道府県の130校から計396点の応募があり、鏡石一小はその中でも最優秀の文部科学大臣賞(小学校高学年の部)に見事選ばれました。

#### 東日本大震災後の鏡石一小の子ども達は

東日本を中心に全国に甚大なる被害をもたらした東日本大震災では、鏡石町も大変大きな被害を受けました。その中でも、鏡石一小は建築から42年経過し、建物が老朽化していたこともあり、震

災以降校舎を使用することはできなくなりました。

鏡石一小の子ども達は、新学期の入学式を町公民館で開催し、授業は鏡石二小と町構造改善センターに分かれて行い、学校へはスクールバスで通っていました。

二学期からは、仮設校舎が完成したことにより、鏡石一小の敷地に戻り仮設校舎での授業が始まり、9月末には体育館復旧工事も完了しました。

ただし、子ども達にとっては慣れない仮設校舎や前より狭い校庭など以前とは環境ががらりと変わりました。震災以降、運動会は校庭で出来ず今年も鳥見山陸上競技場でスポーツフェスティバルとして行われる予定です。

#### それでも元気な鏡石町の子ども達

環境は変わりましたが、そ

れでも子ども達は元気でした。学校から聞こえてくる子ども達の元気な声、通学路で見かける子ども達の笑顔は、震災で大きな被害を受けた町を明るくする希望の光のように、実際に震災後に子ども達に元気をもらった方も多かったのではないのでしょうか。

今回受賞した子ども達も震災当時は3年生でしたが、今では6年生と大きく成長しました。震災復興新聞にもたくさん書かれています。子ども達は震災を悲しむよりも、復興への期待や喜びであふれています。

そして、町の復興のシンボルとして進められている鏡石一小改築工事ですが、平成26年2月(3学期)から新校舎での授業開始予定です。新校舎で授業を開始した時の子ども達の笑顔が想像されます。

## 表彰式

「朝日新聞小中学生復興新聞コンクール」の入賞校を招いた表彰式が3月27日(水)に東京都の朝日新聞本社で行われました。

鏡石一小からは当日参加できた児童25人と石山晃司校長

や学年主任の菅野貴先生、保護者などが大型バスでの日帰り行程で東京へ向かい、表彰式へ参加しました。また、表彰式の終了後には懇親会が開催され、当日は正装をして表彰式に望み緊張した様子の子も達でしたが、懇親会でのご馳走を前にいつもの子ども達に戻ったようでした。



- さあ表彰式が行われる東京へ向かって出発
- クラスを代表して受賞する2人
- 懇親会でのご馳走に夢中です
- 長旅を終えて無事帰ってきました。楽しかった~

